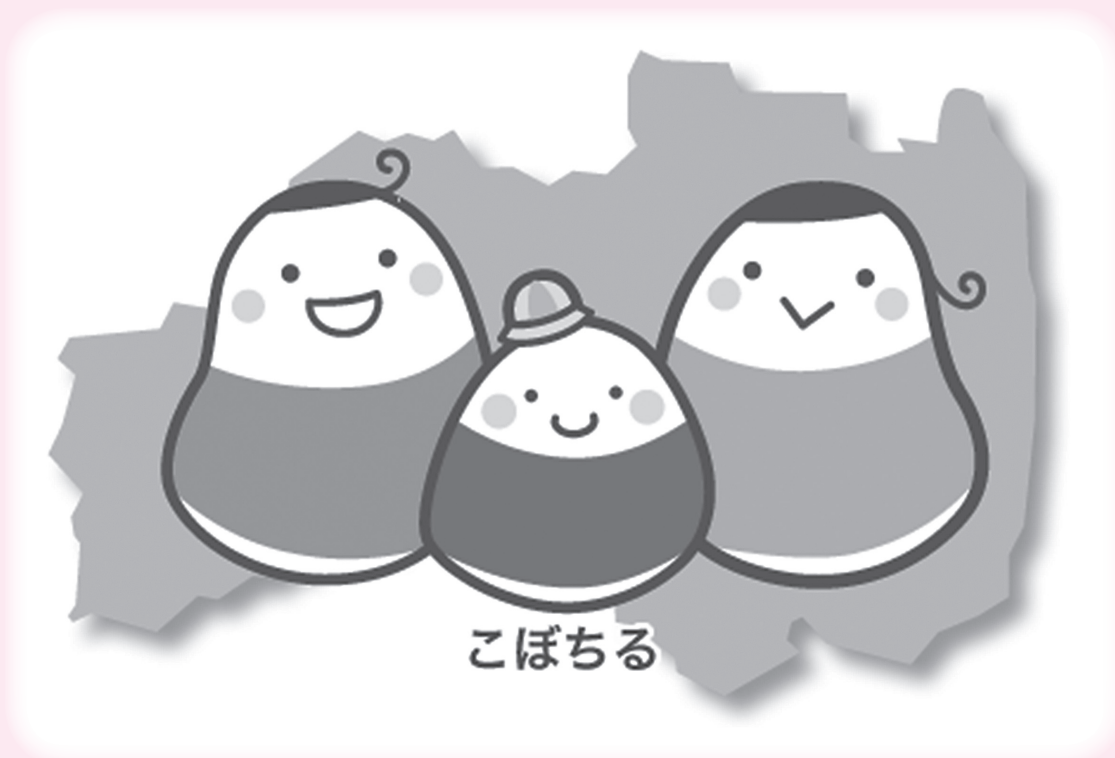


子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

平成27年度 活動報告書



福島県立医科大学
エコチル調査 福島ユニットセンター

目 次

あいさつ 5年経って、そして未来へ

福島ユニットセンター長 橋本 浩一	1
1. エコチル調査の概要	3
(1)背景	3
(2)環境省等による企画・実施	3
(3)調査の内容	3
2. 平成22年度から26年度までの主な活動実績	5
3. 平成27年度活動実績	8
(1)リクルート等の実績	8
(2)全体調査実施状況	8
(3)詳細調査	11
(4)地域運営協議会開催	13
(5)市町村訪問	14
(6)医療機関訪問	14
(7)広報活動	14
(8)謝礼支払い(電子マネー)の運用状況	18
(9)その他研修等	19
(10)学術研究	20
4. 実施体制	21
(1)協力体制	21
(2)ユニットセンター実施体制	22
◎ 資料	
1. 全国集計データ分析結果	23
2. エコチル調査5周年記念シンポジウムポスター	28
3. ニュースレター「エコチル☆ふくしま通信」	29
4. エコチルふれあい会・ふれあいカフェの実施状況	33
5. エコチル調査協力医療機関等一覧(平成28年3月31日現在)	39
6. 平成27年度 福島ユニットセンターの組織図(平成28年3月31日現在)...	41

あ い さ つ

エコチル調査 福島ユニットセンター
センター長 橋 本 浩 一

5年経って、そして未来へ

熊本地震により被災をされました熊本、大分地域の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

エコチル調査において、子ども達は東日本大震災が発生した年の夏から誕生し、福島では現在12,000人を超える1歳から5歳のお子さんが、本調査に参加しています。震災からの5年間は子どもの成長の5年ですが、復興に取り組んだ5年でもあります。この5年間、福島のご家族の皆さまは様々な思いの中で過ごされ、そしてエコチル調査を支えてくださいました。参加されている福島のご家族、関係者の皆さまに改めて感謝申し上げます。

福島県では震災後、ご家族や関係者からの全県下での実施の声に背中を押され、震災翌年の平成24年10月から調査地域が福島県内全59市町村へ拡大されました。全59市町村、50を超す県内の産婦人科医療機関と密に連絡を取り合いながらエコチル調査を実施することが求められました。その際、全国15ユニット中、最大の調査地域である南九州・沖縄ユニットの熊本大学サブユニットのスタッフの方々を福島にお招きしてアドバイスをいただき、また相双地域にお連れし「今の福島」をご案内しました。

熊本のご家族の皆さまは、私たち福島の家族と同様に震災と子どもの成長に不安を感じています。東日本大震災の際、全国15ユニットの皆さまから多くの励ましの声や温かな見守りをいただきました。今度は福島が微力ながらも熊本の皆さまの力になればと考えております。

エコチル調査では参加者全員に半年ごとの質問票調査にご回答いただいておりますが、平成27年4月から、県内の小児科の基幹病院等で詳細調査における2歳児の医学的検査、

精神神経発達検査が開始されています。詳細調査は全参加者の5%に当たる方が無作為に抽出され、インフォームドコンセントの後に13歳になるまで、2年毎に同一の対象者に調査が繰り返して実施されます。福島県では約650人の子どもが対象となりご協力いただいています。

福島県でのエコチル調査はリクルート時には福島県内の対象となる妊婦さんの「お二人に一人」にご協力をいただき、15ユニット中最多の参加者に支えられ、質問票の返却率も常に上位グループで推移しています。参加されているご家族への感謝とともに、本調査に寄せられている大きな期待と責任を感じています。エコチル調査を通して、現在の子育て環境が少しずつ見え始め、シンポジウム等でお知らせする機会も増えてきました。今後、震災後10年、20年と経過してゆく中で福島での子育てを振り返るとき、本調査が重要な答えを導くものと信じております。今後も参加者、関係者の皆さまと一緒に子ども達の成長を見守り、そして歩み続けて行きたいと存じます。よろしく申し上げます。

平成28年6月



1. エコチル調査の概要

(1)背景

『エコチル』とは、「エコロジー」と「チルドレン」を組み合わせた言葉で、『エコチル調査』は、「子どもの健康と環境に関する全国調査」の愛称である。

近年、子どもの間では、ぜん息やアトピーなどの疾病が増加しており、その多くは生活環境の中の物質、運動や食事などの生活習慣、遺伝的な性質などが関係しあって起こるとされている。

小児は各器官の構造や機能が成熟する時期が異なり、また身体的特徴や行動特性によって環境中の有害物に対する特異的な曝露形態があり、化学物質の体内動態にも成人と違いがあるなど、子ども特有の脆弱性が認められる。

このような環境リスクが子どもに与える影響を明らかにするため、実際の人の集団で観察する疫学的なアプローチが重要であることから、これまでに例を見ない大規模な調査を実施することとなった。

(2)環境省等による企画・実施

エコチル調査は、環境省が企画し、コアセンター(国立環境研究所)が実施主体となって、メディカルサポートセンター(国立成育医療研究センター)及び全国の15ユニットセンターの協働により、平成22年度から実施されている。

- ① 平成22年3月 「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」
基本計画を作成・公表
- ② 平成23年1月 「エコチル調査・妊婦さんの参加者募集(リクルート)」を開始
- ③ 平成24年10月 全国15地域を対象に、調査で解析する環境要因に放射線を追加するとともに、福島県における調査対象地域を全県に拡大
- ④ 平成26年3月 リクルート終了
- ⑤ 平成26年11月 詳細調査の中の訪問調査(生活環境調査)を開始
- ⑥ 平成27年4月 詳細調査の中の医学的検査及び精神神経発達検査を開始

(3)調査の内容

1)調査期間

- ① 平成23年1月～平成26年3月 参加者募集(リクルート)
- ② 平成23年1月～平成39年 全体調査
- ③ 平成26年11月～平成39年 詳細調査(訪問調査)

平成27年4月～平成39年 詳細調査(医学的検査、精神神経発達検査)

④ 平成39年～平成44年 解析

2) 調査対象地域

- 全国15地域(北海道、宮城、福島、千葉、神奈川、甲信、愛知、富山、京都、大阪、兵庫、鳥取、高知、福岡、南九州・沖縄)
- 福島の対象地域 平成23年1月～ 県北及び相双地域の10市町村
(福島市、南相馬市、双葉郡8町村)
平成23年6月～ 県北地域の4市町を追加(伊達市、伊達郡3町)
平成24年10月～ 全県域(上記含めた59市町村)

3) 調査対象者

- 調査対象地域に住民票があり、かつ協力医療機関で出産した母親、子ども及び父親で、エコチル調査に同意をいただいた方
- 全国で10万組の母親、子どもを目標参加者数とし、達成した(うち、詳細調査は5%の約5,000人)。

4) 調査項目

- ① 母親に実施される項目
 - ・ 妊娠初期及び妊娠後期 : 質問票、採血、採尿
 - ・ 出産後 : 採血、毛髪採取
 - ・ 出産後1か月健診時 : 母乳採取、質問票
 - ・ その後半年ごとに児13歳まで : 質問票
- ② 子どもに実施される項目
 - ・ 出生時 : 臍帯血採取
 - ・ 出生後 : ろ紙血採血
 - ・ 出生後1か月健診時 : 毛髪採取
- ③ 父親に実施される項目
 - ・ 採血、質問票
- ④ 母親参加者総数の5%の参加者を対象に実施される項目(詳細調査、予定を含む)
 - ・ 1.5歳児、3歳児、6歳児以降1～2回 詳細調査(訪問調査)
 - ・ 2歳児から2歳ごとに12歳まで 詳細調査(医学的検査、精神神経発達検査)

2. 平成22年度から26年度までの主な活動実績

(1) リクルート等の実績

1) 平成23年1月から平成26年3月までの母親参加者数(最終リクルート数)

13,134人(全国：103,106人)

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| ① 平成22年度(平成23年1月～平成23年3月) | 192人 |
| ② 平成23年度(平成23年4月～平成24年3月) | 1,530人 |
| ③ 平成24年度(平成24年4月～平成25年3月) | 4,227人 |
| ④ 平成25年度(平成25年4月～平成26年3月) | 7,185人(リクルート終了) |

2) フォローアップ活動

妊娠初期から生後1か月までについては、医療機関や当センターのRC(リサーチコーディネーター)において回収状況などの進捗管理を実施し、生後6か月から3.5歳までは当センターにおいて、回収状況の確認、質問票への記入漏れをチェックした。

また、参加者からの産後の相談、育児相談等に応じた。

(2) 調査推進のための活動

調査開始前から、市町村及び関係医療機関などに本調査の意義などを説明し、協力体制づくりに努めた。調査開始後も、県民に周知を図り、参加者の協力を得るため、広報活動に力を注いだ。

また、エコチル調査に関する意義を理解してもらい、認知度を高め、1人でも多くの妊婦さんに参加いただくよう、様々な活動を展開した。

1) 市町村訪問

調査開始時に県内全市町村を訪問し、調査に対する理解と協力を求めた。

東日本大震災以後、毎年原発事故被災市町村(南相馬市及び双葉郡8町村)を訪問し、子どもの生活環境の聴取及び調査推進等に係る支援を要請した。

2) 医療機関訪問

調査開始時に産婦人科52協力医療機関を訪問し、調査に対する理解と協力を求めた。

平成25年度 52医療機関を訪問し、リクルート数確保の依頼からリクルート期間終了に至

る周知に努めたほか、小児科基幹7病院に対して、詳細調査に係る理解と協力を求めた。

平成26年度 42医療機関を訪問し、長期にわたる協力に対し感謝を申し上げたほか、10小児医療機関を訪問し、詳細調査(医学的検査、精神神経発達検査)の概要を説明するとともに、実施に向けての課題等を聴取した。

3)地域運営協議会開催

平成22年度 2回、平成23年度 3回、平成24年度 4回、平成25年度 5回、平成26年度 5回

4)RC代行研修実施

平成22年度 3回、平成23年度 5回、平成24年度19回、平成25年度 9回、平成26年度 8回

5)イベント等開催

平成23年度 参加者を対象に「よみきかせ&エコチルコンサート」を開催
(3月10日：福島市)

医療機関スタッフ及び参加者を対象に「放射線に関する講演会」を2回開催
(7月4日、10月9日：福島市)

平成24年度 県民及び参加者を対象に「エコチルコンサート」を2回開催
(10月28日：本宮市、11月3日：福島市)

平成25年度 エコチルコンサート4回開催
(6月15日：会津若松市、7月13日：いわき市、11月10日：郡山市、11月16日：福島市)

キャラクター「こぼちる」の発表と命名者の表彰式
(11月10日郡山市におけるコンサート会場)

6)ふれあい会開催

平成24年度 6か月児及びその親を対象に3回実施

平成25年度 6か月児及びその親を対象に3回実施

1.5歳児及びその親を対象に2回実施

平成26年度 6か月児及びその親を対象に28回実施

1.5歳児及びその親を対象に5回実施

3歳児及びその親を対象に2回実施

7) 広報活動

① マスコミでのPR

テレビ、ラジオ、新聞、地域情報誌等にCM記事の提供と広告の掲載

② ニュースレター発行

参加者向けに「ふくしまエコチル新聞」を発行

(平成23年度2回、平成24年度2回、平成25年度1回、平成26年度2回)

③ 市町村広報誌等への記事掲載

(平成23年度5回、平成24年度12回、平成25年度8回)

④ 活動報告書の発行

市町村向け：「エコチル★活動報告」(平成25年度9回、平成26年度5回)

協力医療機関向け：「エコチル★だより」(平成25年度12回、平成26年度12回)

⑤ 市町村及び各種団体イベントへの参加

福島市「健康フェスタ」等におけるエコチルのブース設置等

(平成25年度4回、平成26年度2回)

3. 平成27年度活動実績

(1) リクルート等の実績

1) リクルート開始後の対象地域の変化とリクルート(参加登録)目標数追加の経緯

平成27年度は、エコチル調査を開始して5年目が終了し6年目に入った節目の年であった。当ユニットセンターは、平成23年1月31日から福島市、南相馬市及び双葉郡の10市町村を対象地域として、産科医療機関を受診した妊婦とそのパートナーを対象にリクルート(参加登録)を開始した。

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故により、相双地域を中心に福島県民の住環境は一変し、双葉郡の調査は中断となった。その後、対象地域は県北地域の4市町が加わり、さらに平成24年10月からは県内59全市町村が対象地域となり参加者募集を行った。

平成26年3月31日をもって3年間のリクルートは終了した。父親のリクルートと子どもの登録は、母親が出産し1か月健診終了した同年12月まで実施した。

表1 福島ユニットセンターでの実施概要

項目	開始時	平成24年10月以降
調査対象地域	10市町村(福島市、南相馬市、双葉郡)	福島県59全市町村
協力医療機関(産科)	19医療機関	52医療機関(うち茨城県1機関)
リクルート目標人数	6,900人	15,900人(拡大9,000人追加)
リクルート期間	平成23年1月～平成26年3月(3年2か月)	平成24年10月～平成26年3月(1年半)

2) 母親、父親及び子どもの参加者数

母親の最終参加者数は延べ13,134人で、同意率は全リクルート数の78.6%、参加目標数延べ15,900人の82.6%であった。また、子どもの出生数は12,835人であり、父親の参加者数は8,695人であった。

子どもの参加者年齢は、平成28年3月31日現在で1歳4か月～4歳8か月であり、1歳までのエコチル調査は終了した。

(2) 全体調査実施状況

1) 質問票調査実施状況

出産後6か月以降の質問票は参加者の誕生月前後とその6か月後の年2回、半年ごとにコアセンターから参加者宅へ発送し、記入後ユニットセンターへ返送される。ユニットセンターでは回収後質問票の入力・データクリーニング作業を行う。

平成27年度は出生後6か月児から4.5歳児までの計8種類、総計25,347部の質問票を発送した。6か月児質問票は平成27年6月に、1歳児質問票は12月に全ての発送を終了し、新たに4歳児質問票が8月から、4歳半児質問票が平成28年1月からその発送を開始した。(表2)

表2 平成27年度 質問票調査発送数(平成28年3月末現在)

質問票種類	6か月	1歳	1歳半	2歳	2歳半	3歳	3歳半	4歳	4歳半
福島本部	28	909	1,842	2,058	1,984	1,618	1,393	969	305
郡山事務所	101	2,187	4,284	4,330	2,652	568	51	49	19
計	129	3,096	6,126	6,388	4,636	2,186	1,444	1,018	324

平成28年3月28日現在の質問票回収(表3)は、6か月質問票(発送後6か月後)96.9%であったが、年齢が上がるにつれ徐々に回収率が低下している。全国15ユニットの平均と比較すると回収率はこれまで数ポイント高い状況で推移している。現在、質問票が発送後1か月半以上返送されない場合、返送依頼を実施する等回収率の維持に努めているが、引き続き重要な課題である。

表3 質問票調査実施状況(平成28年3月28日現在)

質問票種類	質問票発送数	回収数	回収率(%)	
			福島	全国平均
6か月	12,832	12,436	96.9	94.0
1歳	12,737	11,973	94.0	91.1
1歳半	12,567	10,923	86.9	86.3
2歳	9,611	7,903	82.2	83.5
2歳半	6,418	4,998	77.9	80.2
3歳	3,209	2,350	73.2	77.7
3歳半	1,772	1,340	75.6	73.6
4歳	1,022	715	70.0	67.5

2) データの固定化に向けたデータクリーニング作業

妊娠中から出産後1か月までの質問票調査・医師記入の質問票調査・生体試料検査結果のコアセンターでのデータ固定化作業終了が平成27年度末に終了した。数回に分けてコアセンターよりデータクリーニング照会があり、調査票の再確認を協力産科医療機関に依頼した。

3) 疾患情報登録調査

疾患情報登録調査は、生後、児が特定の疾患に罹患した場合、保護者の質問票の記載に基づき、専門的な内容について診療した医療機関へ2次調査票の記入を依頼するものである。

対象疾患は、川崎病、染色体異常及び心疾患以外の先天性奇形、先天性心疾患、内分泌・代謝異常、てんかん・けいれん、小児がんである。

平成27年度より当ユニットセンターでの調査を開始し、県内医療機関にご協力いただいた。

4) フォローアップ状況

調査参加者が、当ユニットセンターから他ユニットセンターの対象地域に転居する場合、又は他ユニットセンターから福島県内に転入した場合は、管轄を変更して調査を継続して実施している。また、対象地域外に転出された場合は、質問票の返送先を福島ユニットセンターとして継続している。協力取りやめなどの意思が明らかでない状態で住所あて先が不明になり、電話連絡が取れなくなった調査参加者には、参加時の同意内容に基づき住民票照会を実施し状況を把握し連絡を試みている。

妊娠中の流産、中絶、子宮内胎児死亡、出産後の子どもの死亡等により調査継続が不可能になった場合を「調査打ち切り」、子どもは追跡可能であるが代諾者(主に両親)の都合により調査継続ができなくなった場合を「調査取りやめ」としている。「調査取りやめ」の理由として、妊娠から出産後までは里帰り、避難、転院、出産後は、転居、多忙、余裕がない、質問票が大変などの理由が多かった。

平成28年3月31日現在の調査打ち切り数は170件、調査取りやめ数は439件である。母親同意数に対してそれぞれ1.3%、3.3%であった。

5) フォローアップ率維持のための対応

エコチル調査終了時のフォローアップ率は80%以上を維持することを目標としている。参加者のエコチル調査に対する思いを大切に、また調査期間中継続して「エコチル調査に参加して良かった」、「13年間エコチル調査を続けたい」といったモチベーションを維持していただけるよう、発達段階に応じたふれあい会をはじめイベント開催やニューズレターの発行などを実施している。((6)広報活動参照)

(3) 詳細調査

1) 詳細調査の開始

平成26年10月、コアセンターから第1次候補者リストが提供され、詳細調査のリクルートを開始した。以後、平成28年1月まで計7回にわたり候補者リストが提供され、詳細調査への協力を依頼した。

詳細調査リクルート数は次のとおりである(平成28年3月末現在)。

第1次抽出 94名(リクルート完了)

第2次抽出116名(リクルート完了)

第3次抽出105名(リクルート完了)

第4次抽出104名(リクルート完了)

第5次抽出101名(リクルート完了)

第6次抽出 93名(依頼中)

第7次抽出 3名(依頼中)

※ リクルート目標数 637名 平成27年3月までのリクルート数 616名

2) 訪問調査の実施

参加者と日程調整し、平成26年11月から1.5歳訪問調査を実施した。

平成26年11月～平成27年3月 187件

平成27年4月～平成28年3月 412件 計599件実施

3) 医学的検査及び精神神経発達検査(新版K式発達検査)の実施

平成27年4月から2歳時の医学的検査、及び精神神経発達検査を実施した。

医学的検査 身体計測のほか、医師による診察や血液検査を実施。

精神神経発達検査 訓練を受けた検査者の面談による検査を実施。

① 協力医療機関・施設

詳細調査の医学的検査及び精神神経発達検査を実施するため、表4の医療機関・施設に協力を得て実施した。精神神経発達検査の検査会場として場所のみを借用する医療機関においては、ユニットセンターの職員(心理士)が出向いて検査を実施した。

表4 詳細調査協力医療機関・施設

	協力医療機関・施設	医学的検査	精神神経発達検査
1	公立藤田総合病院	○	検査会場借用
2	大原総合病院	○	
3	福島県立医科大学附属病院	○	○
4	公立相馬総合病院	○	検査会場借用
5	星総合病院	○	○
6	太田西ノ内病院	○	○
7	白河厚生総合病院	○	※検査会場借用
8	竹田総合病院	○	○
9	福島県立南会津病院	○	検査会場借用
10	いわき市立総合磐城共立病院	○	
11	第二子どもの家		○

※白河厚生総合病院においては5月末まで白河厚生総合病院所属の心理士が検査を担当した。

② 医学的検査及び精神神経発達検査実施件数

医学的検査 平成27年4月～平成28年3月 365件実施

精神神経発達検査 平成27年4月～平成28年3月 378件実施

3) 詳細調査関連会議等

① 検査担当者の情報交換会

平成27年7月 医学的検査担当看護師間情報交換会(郡山市)

平成27年6月 精神神経発達検査担当者間情報交換会(郡山市)

平成27年12月 精神神経発達検査担当者間情報交換会(郡山市)

② 新版K式発達検査リーダー・検査者会合

平成27年4月 発達検査リーダー会合(Web)

平成27年7月 発達検査リーダー会合(Web)

平成28年2月 発達検査リーダー・検査者会合(東京都)

③ 詳細調査担当RC会議

平成27年5月～平成28年3月 計11回

④ 精神神経発達検査定例会

平成27年7月～平成28年3月 計6回

出席者：医学的相談責任者、発達検査リーダー、福島県立医科大学心理士、
福島県立医科大学小児科医、RC

4) 講習会・認定試験

平成27年6月 エコチル調査 新版K式発達検査認定試験(東京都) 受験者1名(合格)

平成28年1月 新版K式発達検査研修会(京都市) 受講者1名

(4) 地域運営協議会開催

1) 開催目的

エコチル調査の円滑な遂行を図るために、行政機関及び医療機関等の委員に対し調査実績や今後の調査に関する情報発信、普及啓発を行うとともに、情報交流の推進を図った。

2) 開催状況

平成27年度は、県及び地域の運営協議会を計5回開催した。

表5 地域運営協議会の開催状況

	協議会名称	開催日	開催地
1	福島県地域運営協議会	7月22日(水)	福島市
2	会津地域運営協議会	10月19日(月)	会津若松市
3	県北・相双地域運営協議会	11月11日(水)	福島市
4	県中・県南地域運営協議会	11月16日(月)	郡山市
5	いわき地域運営協議会	11月20日(金)	いわき市

3) 内容

- 環境省・コアセンターから、全国のエコチル調査の現状と調査にかかる情報やご意見をいただいた。
- 本県のエコチル調査の活動状況、環境省からの年次評価、質問票集計中間結果等について報告した。
- 参加者に13年間調査を継続してもらうための方策や調査に期待すること・要望等について、委員から様々なご意見をいただくとともに、今後のご支援・ご協力を依頼した。

福島県地域運営協議会(平成27年7月22日：福島市)



(5)市町村訪問

・平成27年9月～10月

調査開始時に対象地域であったものの、平成23年3月の原発事故により避難した南相馬市及び双葉郡の8町村を、県内各地にある仮役場などに訪問し、子どもの生活環境などを聴取するとともに、調査の推進等を依頼した。

(6)医療機関訪問

疾患情報登録調査の開始にあたり、対象医療機関を訪問し調査概要等について説明した。

(7)広報活動

1)エコチルふれあい会の実施

ふれあい会は、エコチル調査参加者親子・参加者同士そして参加者と当ユニットセンターとがコミュニケーションを持ち、エコチル調査を長期間にわたり協力していただくモチベーションを高めることを目的として、子どもの成長発達に合わせて県内全域で平成24年度から実施している。

また、平成28年1月には、参加児の親を対象とした「ふれあいカフェ」を企画し1回開催した。

ふれあい会及びふれあいカフェの対象と内容は表6及び表7のとおりである。

表6 ふれあい会の対象と内容

対象	ふれあい会の内容
6か月児	①親子遊び ②ベビーマッサージ ③小児科医のミニ講話 ④茶話会(ママ同士のふれあい・スタッフとのふれあい。子育て相談会など)
1歳半児	①絵本の読み聞かせ ②親子遊び ③親子ミニ運動会 ④小児科医のミニ講話 ⑤茶話会(ママ同士のふれあい・スタッフとのふれあい。子育て相談会など)
3歳児	①親子ダンス(3B体操) ②親子遊び ③小児科医のミニ講話 ④茶話会(ママ同士のふれあい・スタッフとのふれあい。子育て相談会など)

表7 ふれあいカフェの対象と内容

対象	ふれあいカフェの内容
母親	①ミュージシャンによる音楽ライブ(歌・ギター・ピアノ) ②小児科医のミニ講話 ③茶話会(ママ同士のふれあい・スタッフとのふれあい。子育て相談会など)

ふれあい会・ふれあいカフェの実施回数は計35回、参加親子組数は計579組であった。(表8)

表8 ふれあい会・ふれあいカフェ開催状況

対象者	平成24-26年度(3年間)		平成27年度		計	
	実施回数	参加組数	実施回数	参加組数	実施回数	参加組数
6か月児	36	738	4	68	40	806
1歳半児	8	113	19	380	27	493
3歳児	2	9	11	107	13	116
母親	-	-	1	24	1	24

※平成27年度より、母親対象のイベント(ふれあいカフェ)を開催している。

2) ニュースレターの発行

ニュースレターの発行を年2回から4回に増やし、「2015年夏号(平成27年7月)」、「2015年秋号(平成27年9月)」、「2015年冬号(平成27年12月)」及び「2016年春号(平成28年3月)」を発行した。「エコチル調査でわかったこと」や「エコチルふれあい会」の様子、詳細調査に関すること、「おしえて先生」などの子育てに役立つ情報を提供した。(参加者あて約12,200部、市町村等関係機関あて約600部、計12,800部発送)(別添資料3参照)

3) 協力医療機関等への活動報告

平成27年5月から医学的検査及び精神神経発達検査の協力医療機関・施設に対して「エコチル★詳細調査★だより」を毎月発行し、詳細調査リクルート進捗状況、地区別同意数、医学的検査及び精神神経発達検査月別検査予定数、詳細調査実施件数、参加者への結果報告書の送付数等について報告した(創刊号～第9号まで発行)。

エコチル★詳細調査★だより

第9号
2016.3

詳細調査リクルート進捗状況 (2016年2月末現在)
詳細調査リクルート対象者の抽出時期は、第1次から第7次までであり計637人が目標です。

詳細調査参加児	目標数	同意数	備考
第1次抽出(2013年4月～6月生) ～第5次抽出(2014年4月～6月生)	524	521	リクルート完了
第6次抽出(2014年7月～9月生)	96	86	依頼中
計	620	607	

電話で内諾していただいた後に、ご家庭の事情で詳細調査にご協力いただけない方も出てきましたので、目標数より同意数が少なくなっています。

地区別同意者数 (2016年2月末現在)

	第1次抽出	第2次抽出	第3次抽出	第4次抽出	第5次抽出	第6次抽出	計
県北	38	43	26	36	31	36	206
県中	27	37	35	33	32	34	198
県南	4	6	9	6	4	4	33
会津	10	13	9	13	10	6	61
南会津	1	2	2	1	2	-	8
いわき	9	13	21	15	22	10	90
相双	5	2	3	-	1	-	11
計	94	116	105	104	102	86	607

精神神経発達検査及び医学的検査の月別検査予定数
参加児が2歳になる月を、地区別に検査予定数とした表です。各医療機関・施設で担当する検査数の目安にいただければ幸いです。

参加児の生年月	県北	県中	県南	会津	南会津	いわき	相双
2016年2月	12	11	4	2	1	4	-
2016年3月	15	10	3	7	-	9	-
2016年4月	10	10	2	2	1	8	1
2016年5月	10	9	3	4	-	8	-

医学的検査は、誕生日の翌月または翌々月に実施している状況です。

詳細調査実施件数 (2016年2月末現在)

	訪問調査	精神神経発達検査	医学的検査	取り止め数
第1～第2次抽出	210(完了)	207(完了)	205(完了)	4
第3次抽出	105(完了)	98	97	1
第4次抽出	104(完了)	35	24	-
第5次抽出	97	-	-	-
第6次抽出	45	-	-	-

1歳半に実施した訪問調査終了後、ご家庭の事情で詳細調査にご協力いただけない方も出てきました。

参加者への結果報告書の送付数 (2016年2月末現在)

返却日	環境測定	精神神経発達検査	医学的検査
2015年6月 ～2016年2月末	431	134	250

結果報告書の内容
今月は、参加者様に送付している医学的検査結果報告書の内容についてご案内いたします。

<医学的検査結果報告書>

- 計測
 - 身長 体重 頭囲 ……2回測定した平均値を記しています。
 - 体温 脈拍 呼吸数
 - 血圧 ……血圧は3回測定したうち、収縮期が一番低かったものを測定値としています。
- 血液検査

アレルギー関連項目 非特異的 IgE 特異的 IgE 食物 卵白 抗 オボムコイド* 牛乳 原 Ara_h2* ダ コナヒョウダニ(室内のほこりに生息) ニ ヤケヒョウダニ(室内のほこりに生息) 上皮 イヌ皮膚(イヌのふけ) 動物 ネコ皮膚(ネコのふけ) 花 スギ花粉 粉 シラカンバ	甲状腺ホルモン関連項目 遊離サイロキシン 甲状腺刺激ホルモン ビタミン関連項目 ビタミンD2 ビタミンD3 ビタミンD*
---	--

*オボムコイド：卵白の成分の一つで加熱してもアレルギーを起こす力が弱まらないもの。
 *Ara_h2：ピーナッツの成分の一つで、特にアレルギーと関わるとされているもの。
 *ビタミンD：ビタミンD2とビタミンD3の総和。

なお、結果報告書には、参加者様の理解を深めるためアレルギー関連項目、甲状腺ホルモン関連項目、ビタミンD関連項目に関する詳細な説明書も同封されています。

季節柄、体調を崩される参加者様も少なくありません。そのために検査日の再日程調整をお願いすることもございますので、その際は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【編集・発行】 福島県立医科大学 エコチル調査福島ユニットセンター
 (福島本部事務所) 〒960-1295 福島市光が丘1番地
 TEL 024-547-1449 FAX 024-547-1448
 (郡山事務所) 〒963-8024
 郡山市朝日3丁目6-4 レジデンス朝日第2ビル2階
 TEL 024-983-4780 FAX 024-983-4781
<http://www.ecochil-fukushima.jp/>

エコチル★詳細調査★だより 第9号(2016/3発行)

4)市町村主催のイベントへの参加

各市町村で主催するイベントのブースに出展し、来場者にエコチル調査の周知及び活動内容や調査で分かったことなどについて広報活動を行った。

表9 市町村主催イベントへの参加状況

主催市町村名	イベント名	参加日
郡山市	「こどもまつり」	平成27年5月5日(火)
いわき市	「いわき食育フェスタ」	平成27年9月5日(土)
会津若松市	「会津健康まつり」	平成27年9月27日(日)
郡山市	「郡山ファミリーフェスタ」	平成27年10月4日(日)

郡山ファミリーフェスタ



会津健康まつり



いわき食育フェスタ



5)グッズの作成等

今後の調査継続への協力要請等を目的として、ノベルティグッズを作成し、身長計やオリジナルカレンダーを参加者全員に配布した。

また、クリアファイル等を、イベントの参加者に配布した。

(8)謝礼支払い(電子マネー)の運用状況

調査参加者への謝礼として当初より金券を送付していたが、平成26年3月から電子マネーによる支払いに切り替えた。

1)目的

母親参加者約13,000人に今後13年間にわたって年2回、質問票への謝礼として金券での謝礼支払いを行うことは、人的、時間的な労力を要し、また、簡易書留の郵送費を伴うこととなる。これら膨大な労力と経費を削減するとともに、金券の紛失等の人的ミスを解消し、参加者に確実に謝礼をお支払いするため、謝礼の支払いを電子マネーに切り替えることとした。

また、平成26年11月から、参加者の5%にあたる637人の方を対象とする詳細調査が開始され、その謝礼についても電子マネーによる支払いとした。

2)適用範囲・対象者

母親参加者を対象とし、謝礼支払いの機会が1回のみのお父さん及び銀行振込で支払っている医療機関は、対象外とする。

同意書や質問票を提出した母親12,018名(平成28年3月末現在)に対し、電子マネーカードを送付し、謝礼をポイントとして付与した。



電子マネーカード

(9)その他研修等

1)RC代行研修

平成27年度はユニットセンター職員等13人に対して入職時に6回実施した。これまで実施した医療機関、市町村、ユニットセンターの職員等に対する研修は、計50回、受講者は計617名となった。

2)他ユニットセンターとの情報交換会

富山ユニットセンター、宮城ユニットセンター及び北海道ユニットセンターの3か所を教員及びRC等が訪問し、情報交換会を開催した。(表10)

表10 他ユニットセンターとの情報交換会

訪問先	訪問日	訪問職員	情報交換の内容
富山 ユニットセンター	平成27年11月18～19日	RC 2名 教員 1名	フォローアップの取組み及び詳細調査実施について
宮城 ユニットセンター	平成28年 2月23日	教員 2名 事務職員 1名	データの学術利用について
北海道 ユニットセンター	平成28年 3月7～8日	教員 2名 RC 2名 事務職員 2名	フォローアップの取組み及び詳細調査実施について 北海道スタディ(小児環境保健出生コホート研究)及びエコチル調査の学術情報発信について

3)職員研修

全職員を対象に次の研修会を実施した。

○ 平成27年 7月10日

エコチル調査の現状、個人情報の取扱い、教養講座(「子どもの発達障害について」
福島県立医科大学小児科学講座 鈴木雄一先生)

○ 平成27年 8月10日、11日、12日

個人情報管理の徹底、標的型攻撃メール対策など

○ 平成27年10月26日、27日、29日

男女共同参画の推進

○ 平成28年 2月19日

リスクマネジメント、詳細調査の状況、情報管理、教養講座(「PM2.5環境基準と疫学研究」日本エヌ・ユー・エス株式会社 松本正喜先生)

4)他主催研修への参加

コアセンター主催のエコチル調査スタッフ研修や次期システムデータ管理システム研修会等に積極的に参加した。

(10)学術研究

1)エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ

学術的情報発信を大学一体となって推進するため、平成27年4月6日に「エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ」を設置し、平成27年12月2日に「第1回エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ会議」を開催した。

学内の研究者に対し、エコチル調査の概要・追加調査の現状・データの学術利用等について説明を行い、周知を図った。

2)中心仮説解析計画検討ワークショップ

エコチル調査における中心仮説に関する成果発表に関して検討を進めるために、コアセンター(国立環境研究所)主催で「中心仮説解析計画検討ワークショップ」が4回(平成27年4月、8月、11月、平成28年2月)開催された。

当ユニットセンターでは、8名の教員が積極的に参加し、中心仮説に関する研究計画書の作成に携わった。

3)学会発表・論文執筆

①学会発表

平成27年6月18～20日 第62回日本小児保健協会学術集会

○福島県におけるエコチル調査の現状, 橋本浩一 他

○エコチル調査におけるフォローアップ率維持のための試み, 半澤ハル子

平成27年9月10日 平成27年度福島県保健衛生学会

○福島県におけるエコチル調査の登録状況、および質問票返却率について, 橋本浩一

○「エコチルふれあい会」の開催状況、およびアンケート結果, 半澤ハル子

平成28年1月21～23日 第26回日本疫学会学術総会

○福島の子どもたちの未来とエコチル調査の貢献

②論文執筆

「福島ユニットセンターの活動」

橋本浩一, チャイルドヘルス, vol.19, No3, P48-49, 2016

「福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」」

橋本浩一, 福島県保健衛生雑誌, vol.27, P28-32, 2016

4. 実施体制

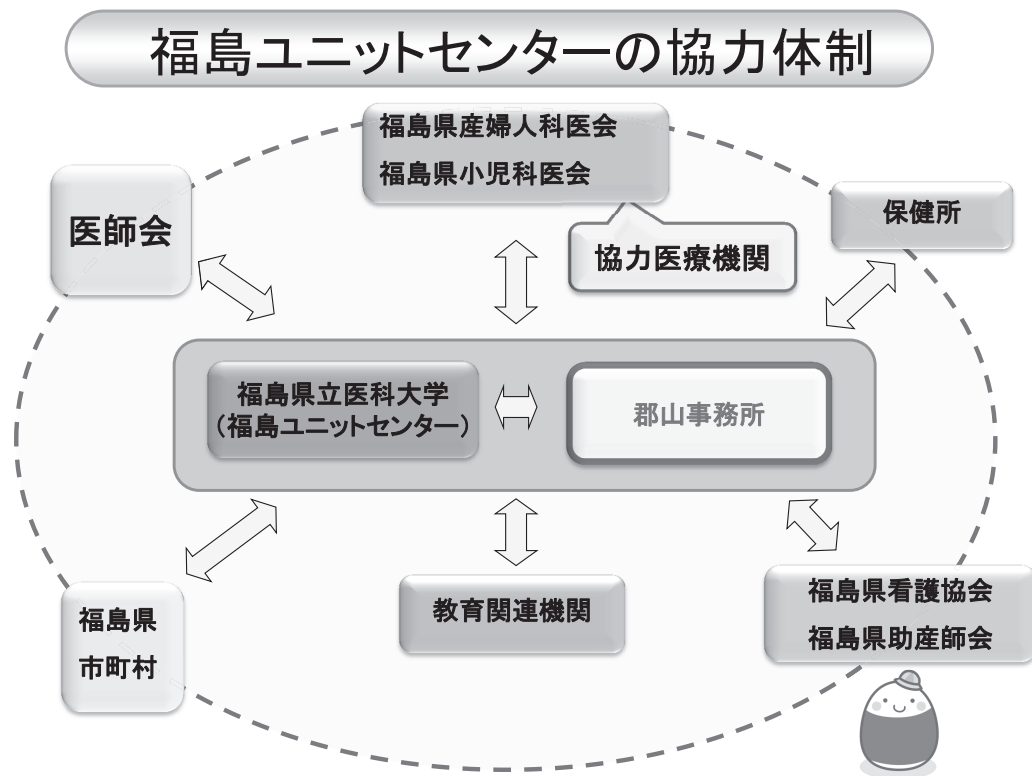
(1) 協力体制

1) 関係機関

福島県内の行政機関や医療機関など調査に関係する様々な機関にご協力をいただき、参加者のリクルートに努めた。

調査事業を始めて5年余、福島県の関係部局や保健所、全ての市町村、医師会、産婦人科医会、小児科医会、看護協会、助産師会並びに教育機関などの関係機関に地域運営協議会の構成員になっていただき、様々な場面で事業推進にご理解とご支援をいただいた。

福島ユニットセンターの協力体制



2) 協力医療機関

平成23年1月にリクルートを開始して以来、平成26年度末までの3年間以上の長期にわたり、産婦人科を抱える県内医療機関の8割を超える医療機関において母親のリクルート及び検体回収及び調査票にご協力いただいた。(資料5-1)参照)

平成27年度は、以下の内容について各医療機関にご協力いただいた。

1. 出産時データの固定化に伴うデータクリーニング作業(産科協力医療機関)

2. 疾患情報登録調査には、対象児が受療した医療機関での調査(対象医療機関)
3. 平成27年度より開始した詳細調査 2歳時医学的検査・精神神経発達検査の実施(小児科のある二次医療機関)

(2)ユニットセンター実施体制

1)平成23年 1月

事業開始時は、県北及び相双地域の10市町村を対象として、福島県立医科大学内において事務3人及びRC 2人の計5人で業務を担当する。

2)平成24年 4月

事業開始直後の東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で双葉郡内はリクルートが中断、参加者等の行方等の確認や県北地域の4市町への調査対象地域拡大等により、スタッフを増員し、事務8人及びRC 6人の計14人で調査に当たる。

3)平成24年10月～

平成24年10月に調査対象地域の全県拡大に伴い、新たに郡山市内に事務所を設置するとともに、その支所を白河市、会津若松市及びいわき市に置いた。郡山事務所の職員数は開所後急増し、従来の福島本部事務所と合わせて平成25年度は職員約60人、派遣職員10人余で事業を推進した。

4)平成26年12月～

平成26年11月末をもって郡山事務所の3支所を廃止し、また、協力医療機関における常駐業務を終了したことに伴い、郡山事務所の職員数を削減したため、福島本部事務所と合わせて、平成26年度末の職員数は39人となった。

平成27年度末の職員数は、福島本部事務所と郡山事務所を合わせて41人となった。

(別添「資料6」参照)

◎ 資料

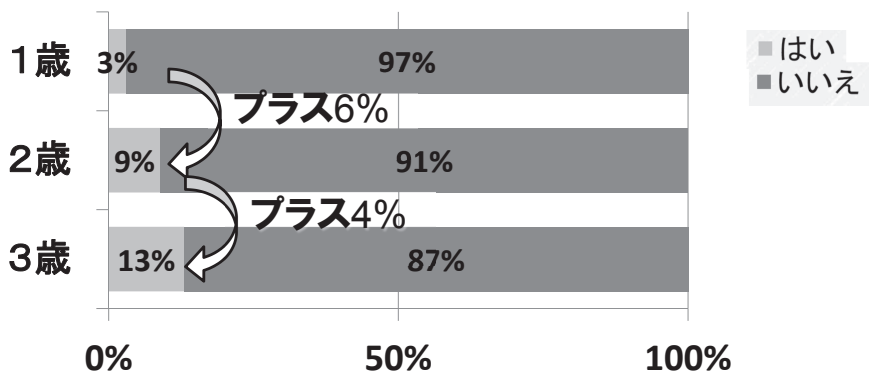
1. 全国集計データ分析結果

平成28年1月16日に開催された「エコチル調査5周年記念シンポジウム」(環境省主催)の資料の中から、主なものを掲載します。

(注意) 図表の数値は、平成26年の回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。

ぜん息 **お子さんは、今までにぜん息になったことがありますか。**

※本集計結果の「ぜん息」は、自記式質問票による回答です。



当然ですが、年齢を重ねるごとにぜん息を経験したお子さんが増えている

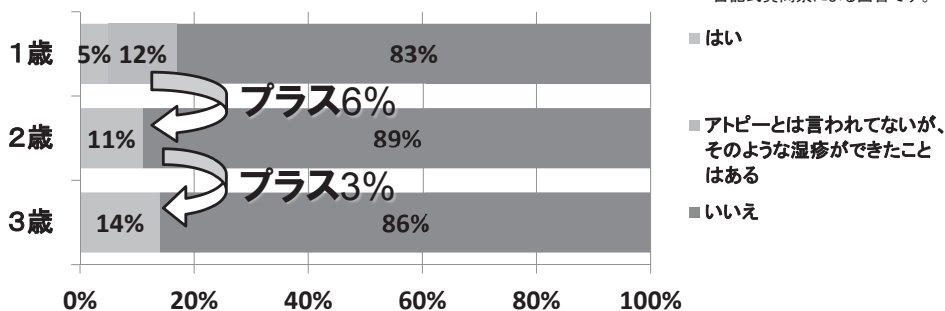
※回答数: 25963件、無回答: 1歳716件、2歳758件、3歳74件
 ※喘息になったことがあると回答した以降にないと回答したものは、あるとして集計した。

2015年11月20日時点のデータに基づく暫定的な結果です。¹
 環境省HP「イベントの開催」5周年記念シンポジウム資料から

アトピー性皮膚炎

質問(1歳) : お子さんはこれまでにアトピー性皮膚炎の湿疹になったことがありますか。
 質問(2、3歳) : お子さんは、今までにアトピー性皮膚炎になったことがありますか。

※本集計結果の「アトピー」は、自記式質問票による回答です。



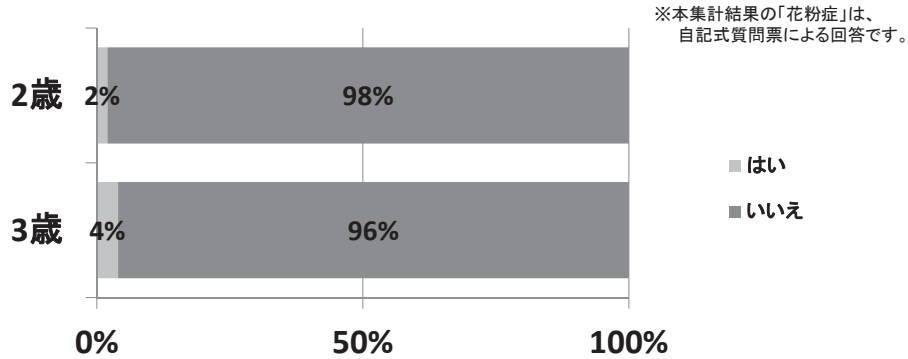
当然ですが、年齢を重ねるごとにアトピー性皮膚炎を経験したお子さんが増えている

※回答数: 25963件、無回答: 1歳648件、2歳814件、3歳124件
 ※アトピー性皮膚炎になったことがあると回答した以降にないと回答したものは、あるとして集計した。

2015年11月20日時点のデータに基づく暫定的な結果です。²
 環境省HP「イベントの開催」5周年記念シンポジウム資料から

花粉症

お子さんは、今までに花粉症になったことがありますか。



実際に、年齢を重ねるごとに花粉症のお子さんが増えている

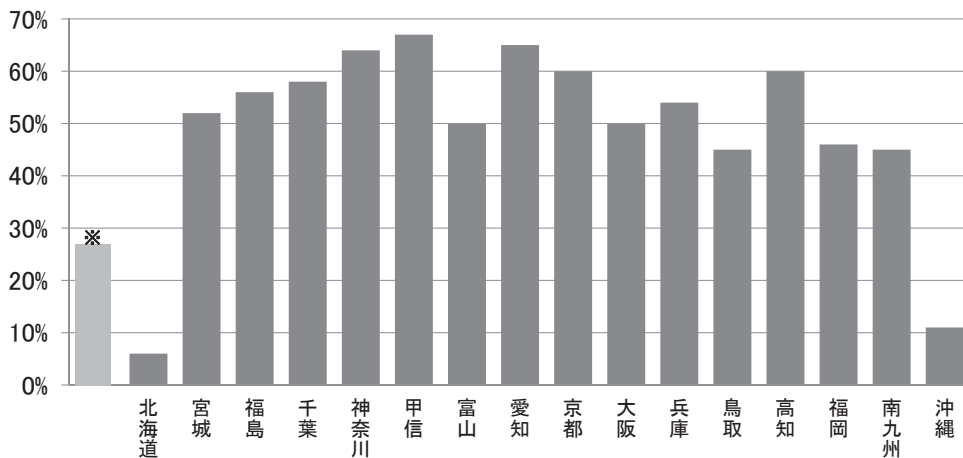
※回答数：25963件、無回答：2歳843件、3歳194件
 ※花粉症になったことがあると回答した以降にないと回答したものは、あるとして集計した。

2015年11月20日時点のデータに基づく暫定的な結果です。 3
 環境省HP「イベントの開催」5周年記念シンポジウム資料から

妊婦さん

地域別スギ花粉特異的IgE陽性※
 ※クラス2以上

全参加者の内、採血した90,583人の妊婦さんのデータ

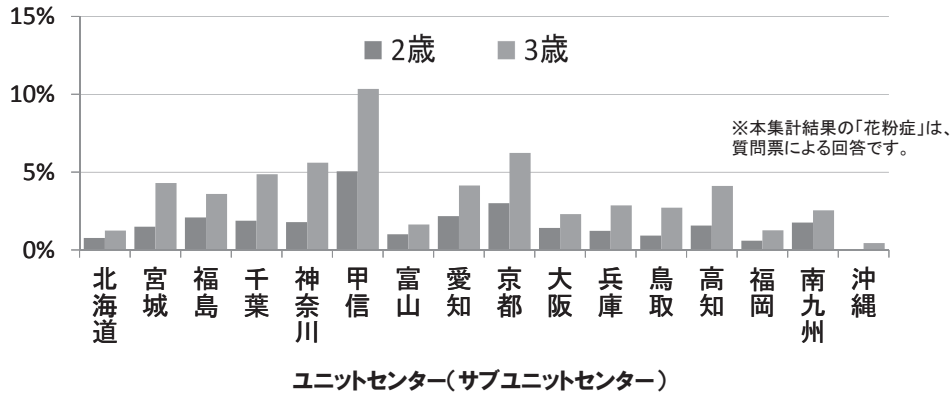


※北海道ではシラカンバについても測定 ユニットセンター(サブユニットセンター)

2015年6月5日時点のデータに基づく暫定的な結果です。 4
 環境省HP「イベントの開催」5周年記念シンポジウム資料から

子ども

お子さんは、今までに花粉症になったことがありますか



地域によって、花粉症のお子さんの数に差が見られる

回答数：2歳56786件、3歳25963件、無回答：2歳403件、3歳194件

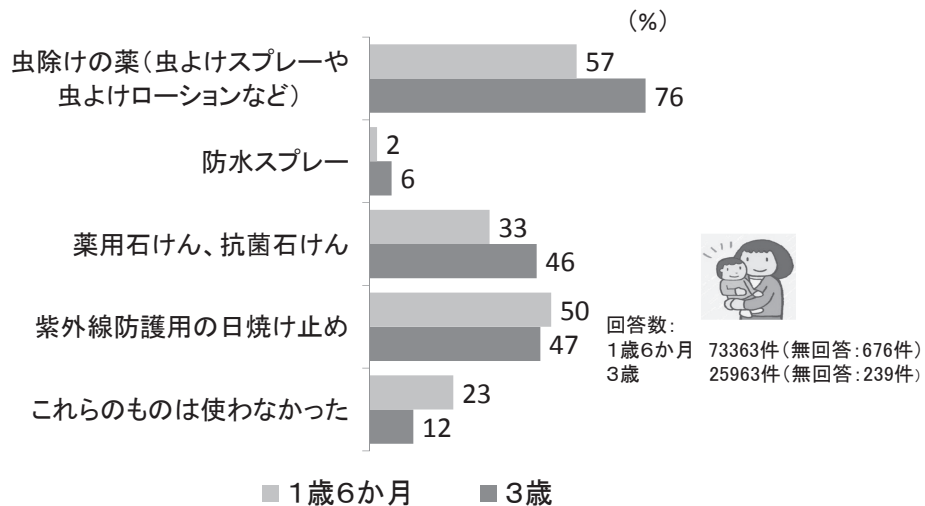


2015年11月20日時点のデータに基づく暫定的な結果です。

5

環境省HP「イベントの開催」5周年記念シンポジウム資料から

この1年間に、お子さん自身やお子さんの衣類などに使用したもの(複数回答)



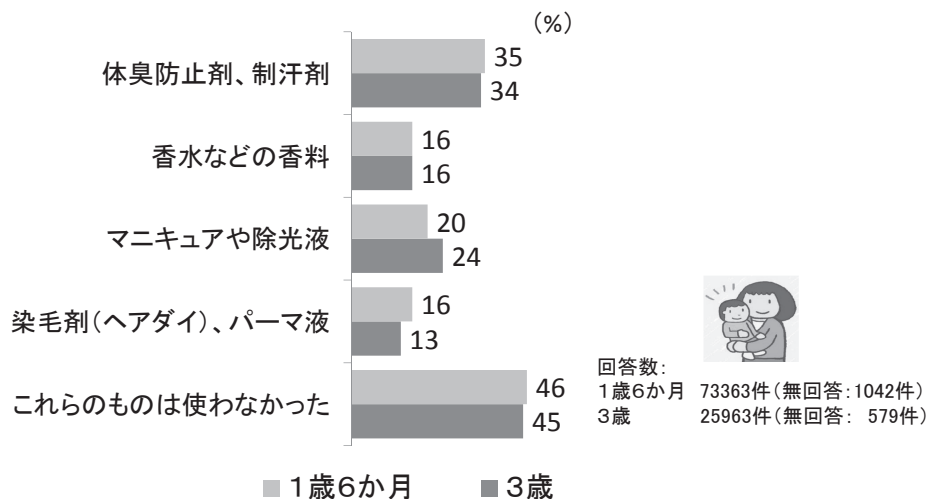
◆ 使用している割合が、1歳6か月に比べて、3歳が多い傾向。

(注意) 2015年11月20日時点のデータに基づく暫定的な結果です。

6

環境省HP「イベントの開催」5周年記念シンポジウム資料から

この1年間に、あなたがお子さんのそば (お子さんのいる部屋)で使用したもの(複数回答)

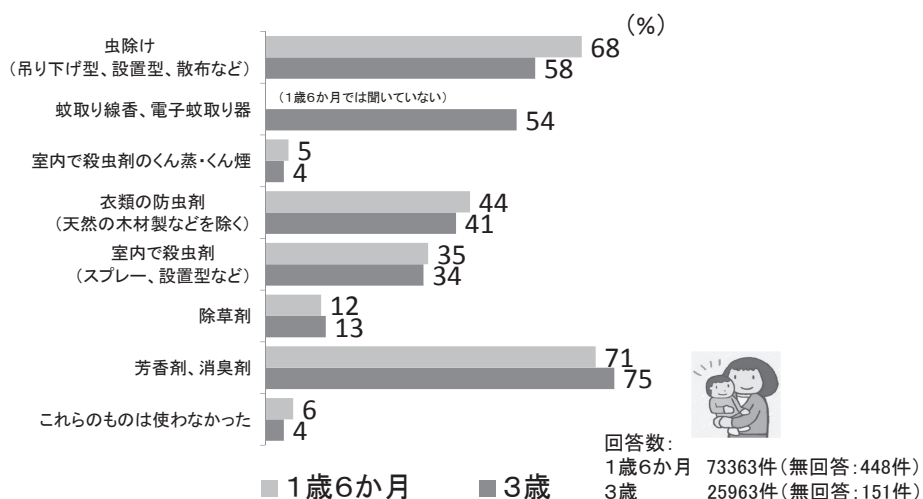


◆ 約半数が、子どものそばで、使用していない。

(注意) 2015年11月20日時点のデータに基づく暫定的な結果です。 7

環境省HP「イベントの開催」5周年記念シンポジウム資料から

この1年間に、ご自宅で使用したもの(複数回答)

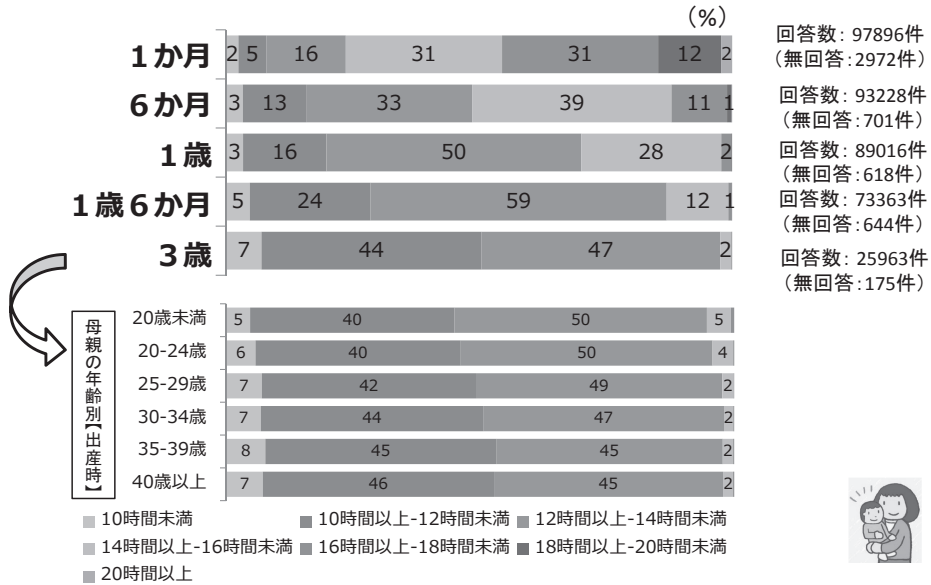


◆ 使わない人は5%程度。

(注意) 2015年11月20日時点のデータに基づく暫定的な結果です。 8

環境省HP「イベントの開催」5周年記念シンポジウム資料から

赤ちゃん・子どもの睡眠時間は？



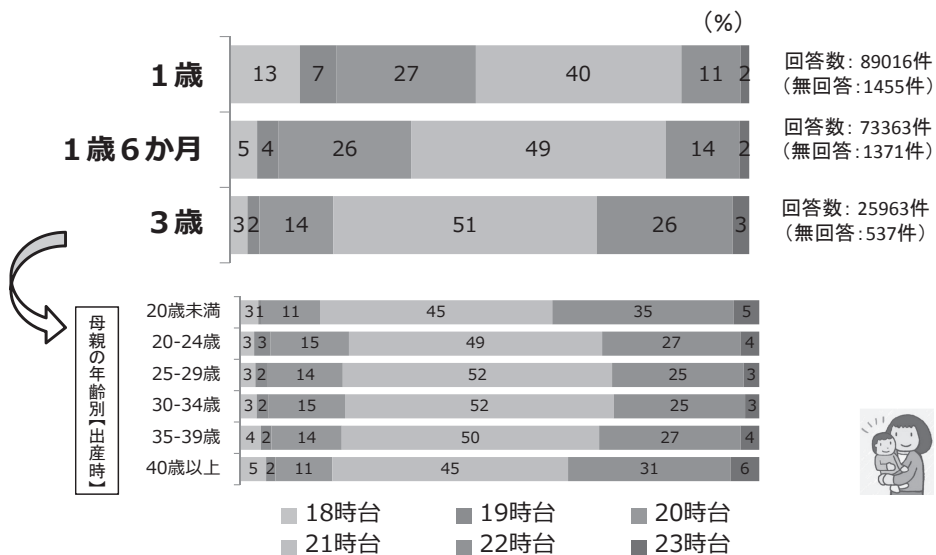
- ◆ 3歳児の場合、7%が、推奨される睡眠時間（10-13時間）※以下。
- ◆ 睡眠が短いことによる影響が懸念される。

※全米睡眠財団による

(注意) 2015年11月20日時点のデータに基づく暫定的な結果です。 9

環境省HP「イベントの開催」5周年記念シンポジウム資料から

赤ちゃん・子どもの就寝時刻は？



- ◆ 3歳児の場合、22時以降に寝かせているお母さんが約3割。

※質問票の18時から23時半までで、はじめてチェック(横線)がついた時刻を就寝時刻として集計したもの。

(注意) 2015年11月20日時点のデータに基づく暫定的な結果です。 10

環境省HP「イベントの開催」5周年記念シンポジウム資料から

2. エコチル調査5周年記念シンポジウムポスター

エコチル調査5周年記念シンポジウムが、平成28年1月16日に日本科学未来館で開催され、その会場で掲示した福島ユニットセンターのフォローアップに関する取り組みについてのポスターです。

参加者対象人数：母親 12,506名, 子ども 12,619名, 父親 8,525名 (2015年10月末現在)

参加者対象地域：福島県全域 (59市町村)

1. 実施体制

- 開始時の対象地域は14市町村だったが東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故後、県内から県全域で調査を望む声が高まり、**全59市町村**に拡大された
- 県内のほぼ90%の産婦人科医療施設がリクルートに協力 (60施設中52施設)
- リクルート期間では福島の妊婦さん*の2人に1人が参加 (*2011.1~2014.3の妊婦さん)

対象地域：福島県全域

福島県は、各地に都市が分散し、7つの特色のある生活圏が形成されています。



質問紙調査実施状況

対象児	福島UC			15UC総計
	発送数	完了数	完了率 (%)	完了率 (%)
6ヶ月児	12,830	12,412	96.7	94.0
1歳児	10,407	9,796	94.1	91.0
1.5歳児	7,210	6,618	91.8	88.7
2歳児	3,873	3,440	88.8	86.9
2.5歳児	1,969	1,739	88.3	85.4
3歳児	1,166	1,017	87.2	83.7

2015.11.5現在 発送後6ヶ月
出典:2015.11.10 実務担当者WEB会議資料

2. フォローアップ活動報告：イベント実施状況

福島UCモットー

「福島の子どもの成長を家族とともに13年間見守る」
「顔が見える」参加者さんとのコミュニケーションを大切にする

エコチルふれあい会

2012年度からこれまでの3年半の間に、参加者間・参加者-スタッフ間交流を目的とし、**6ヶ月、1.5歳、3歳の子を対象**に県内各地で**約70回**開催。これまでに、**1200組**を超える親子が参加。



6ヶ月児
ベビーマッサージ



1.5歳児
親子遊び・ミニ運動会など



3歳児
リズム体操

※毎回、「顔が見える」コミュニケーションとして、参加者さん同士が交流できる茶話会・育児相談・小児科医師ミニレクチャーの時間を設けている



絵本読み聞かせ



こぼちる

マスコットキャラクター
「こぼちる」

子どもの健やかな成長を願った福島の郷土玩具がモチーフ

ニュースレター発行

年4回
発行



ホームページ

イベントお知らせ・
スタッフ紹介など
<http://www.ecochil-ukushima.jp/>



コンサート・講演会

エコチルコンサート・
子育て講演会など
各地で開催



電話での育児相談
も受け付けています

福島ユニットセンター

公立大学法人
福島県立医科大学

3. ニュースレター：2015年夏号(平成27年7月発行)



発行／エコチル調査福島ユニットセンター

10万人を一度に見ることができる顕微鏡

エコチル調査福島ユニットセンター長
小児科医

橋本浩一



エコチル調査は5回目の夏を迎えました。皆さまいかがお過ごしでしょうか？

東日本大震災の直前に開始されたエコチル調査は、平成27年1月で満4年となり、最初の年に生まれたエコチルキッズは4歳となり幼稚園の年少さんです。

参加者登録数は、全国では目標の10万人を達成し、福島県では参加登録期間の県内の妊婦さんの、「二人に一人」にあたる13,134人の妊婦さんが参加しました。昨年12月までに出産が終了し、12,000人を超す子ども達と約8,000人の父親も参加されています。いずれも全15ユニット最多の人数です。



多くの人を乗せ「エコチル福島丸」はフォローアップを中心とする13年間の大海原へ大きなマストを広げ出帆しました。半年ごとの質問票の福島県での回収率は概ね90%であり、つねに全国平均を上回り、ご家族の皆さまの熱心な取り組みに感謝するばかりです。昨年10月からは、全体の5%の方にランダムにご協力をお願いする詳細調査が開始されました。同意の後、昨年11月からご自宅での環境測定、そして本年4月からは病院等での医学的検査、精神神経発達検査を行っています。

10万人を母集団に持つ研究とは10万人を一度に見ることができる顕微鏡が手元にあるようなものです。エコチル調査で得られるデータは予想値ではなく、10万人の本当の生活の様子です。10万人の参加者に寄り添い、ご協力いただき、確かなエビデンス^{*}に基づく「安心で安全な子育て環境」を未来の子ども達にプレゼントすることがエコチル調査に課せられた宿題です。暑さに負けず一緒に夏を乗り切りましょう。

※科学的根拠、信頼性のあるデータ

ニューズレター：2015年秋号(平成27年9月発行)

Japan
Eco&Child
Study



エコチル ふくしま通信



発行/エコチル調査福島ユニットセンター

産婦人科から小児科へ —実りあるエコチルへ—

今年の猛暑は例年になく厳しかったですが、最近はややかな秋風とともに山々の木々も美しく色づき始め、秋の深まりを感じられる実りの季節になってきました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか？

平成23年1月から始まったエコチル調査も、皆さまの絶大なご協力とご支援により平成26年3月末をもって産婦人科でのお母さまのリクルートが終了し、さらに平成26年の12月をもって全てのお母さまのお産も無事終わりました。途中、東日本大震災があり、平成24年10月からは福島県内にお住まいになっている全ての妊婦さまが対象となり、合計13,000人を超える方にご参加いただきました。この参加者数は、全国15箇所のなかでトップです。これだけ沢山の皆さまにご参加いただいたのは、お母さまやお父さまのご協力はもちろんのこと、福島県内の産婦人科の先生、助産師さん、看護師さん、皆

エコチル調査福島ユニットセンター 副センター長
福島県立医科大学医学部 産婦人科学講座 教授



藤森 敬也

様のご協力なくては達成できませんでした。本当にありがとうございました。

今後、エコチルは主に皆さまにお願いする質問票による調査と、一部の方々にお願いする詳細調査によって、産婦人科の先生から小児科の先生へ引き継がれていきます。それと同時に、少しずつではありますが、全国のみならず、福島県内の皆さまのデータの解析や分析が行なわれて、エコチルの実がどんどんなっています。

今後もお子さまの成長と実りを目指して、福島ユニットセンターや国の研究機関がサポートして参りますので、将来の子供たちの健やかな成長のための調査に今後ともご協力下さい。

Event

エコチルふくしま 子育て講演会 & コンサートのお知らせ

日時 平成27年11月14日(土)
場所 郡山市民文化センター 中ホール

会場の皆様にお会いできるのを楽しみにしております!

**「なんでも相談コーナー」
ブースも設けます**

育児相談や健康相談、質問票に関する疑問や質問、なんでも聞いてくださいね!お待ちしております☆

子育て講演会
心と体をつくる
食事学
※予定 東京農業大学 名誉教授
農学博士 小泉 武夫 先生

コンサート 親子で楽しむ
「ケロポンスコンサート」

※応募方法など、詳細は同封のチラシまたはホームページをご覧ください。

**オリジナル身長計を
同封しています。**

エコチルふくしまのオリジナル身長計で、お子さまの成長を記録してみませんか? 140cmまで測る事ができるのでとても便利です♪ 質問票に身長を記入する際などに、ぜひご利用下さい。



エコチル ふくしま通信



発行/エコチル調査福島ユニットセンター

「こぼちるちゃん」は満5歳になります

平成23年1月に開始されたエコチル調査は、皆さま方の温かいご支援により、平成28年1月で晴れて満5歳を迎えます。

エコチル調査には、平成26年3月まで、全国ではリクルート目標数としていた100,000人を上回る妊婦さんに参加いただき、福島県では、当初は県北および相双地区を対象に開始されましたが、東日本大震災を受け平成24年10月からは福島県全域に拡大され、13,000人を超える妊婦さんに参加いただいています。全国に15カ所ある地域ユニットセンターの中でも、最も多く参加いただいているのが福島ユニットセンターです。

平成26年3月に産婦人科での妊婦さんのリクルートが無事終了し、平成26年4月からは、出生されたお子さんを対象とするフォローアップが中心になりました。「全体調査」では、皆さまに、6か月ごとに質問票の記入をお願いし、これが13歳まで続くこととなります。また、平成26年10月からは、全国で5,000人を対象とする居住

エコチル調査福島ユニットセンター 副センター長
福島県立医科大学医学部 小児科学講座 教授

細矢 光亮



環境調査や精神神経発達検査などを行う「詳細調査」が開始され、福島ユニットセンターにおいても詳細調査参加者のリクルートが進められているところです。全国の地域ユニットセンターの中で、「全体調査」や「詳細調査」に最も多く参加いただいているのも福島ユニットセンターですので、福島でのフォローアップの成否がエコチル調査全体を左右すると言っても過言ではありません。今後13年間の長期にわたるフォローアップは、ご家族の皆さまのご協力なくして成し得ません。そして、多くの方々到最后までご協力いただいて初めて、エコチル調査の「安心して子育てができる環境を」という最終的な目的が達成されることとなります。

未来の日本を担う子どもたちの健やかな成長のために、引き続きご協力をお願いいたします。

子育て講演会 & コンサート 開催しました!

子育て講演会
「心と体をつくる
食事学」

ケロボンズ
コンサート

11月14日(土)、郡山市民文化センターで「子育て講演会&コンサート」が開催されました。あいにくの雨でしたが、たくさんの方にご来場いただきまして、本当に有難うございました。

第一部は、農学博士で発酵学者の小泉武夫先生(本県小野町のご出身です)の講演。食べ物が私たちの心と体と与える影響や、世界に誇れる日本の伝統的な食文化「和食」の素晴らしさを改めて教えていただきました。

第二部のスタートはエコチル調査のご報告。続いてケロボンズさんのコンサート。楽しいトークとユニークな歌や体操で、会場が大盛り上がり。親御さんもお子さんも(スタッフも!)元気に踊りました~!

これからも、皆様に楽しんでいただけるイベントを開催していきます。今回、残念ながらご参加いただけなかった皆様も、機会がありましたらぜひご参加ください。スタッフ一同、心よりお待ちしております。

エコチル ふくしま 通信



発行/エコチル調査福島ユニットセンター

エコチル調査 6年目に入りました

エコチル調査福島ユニットセンター
副センター長
福島県立医科大学医学部
公衆衛生学講座 教授

安村 誠司



エコチル調査の正式名称は、「子どもの健康と環境に関する全国調査」です。日本では近年、アレルギー疾患・喘息などの増加や精神発達障害などの増加が指摘されて、その原因の一つとして、環境にあるさまざまな化学物質が注目されています。そのような状況を踏まえ、環境省では、日本中で10万組の子どもたちとそのご両親に参加して頂くエコチル調査を2011年より実施しています。福島では2011年1月から登録を開始しましたが、3月11日に東日本大震災が発生し、その後の東京電力福島第一原子力発電所事故により、一時中断せざるを得なくなりましたが、翌年、福島県全域に拡大されたことはご存知の通りです。

現在、詳細調査として、約5%の方に、居住・生活環境中の

化学物質やハウスダストなどを調べたり、アレルギー抗体の採血検査をしたり、面接による精神神経発達検査などが実施されています。福島では多くの方に調査に同意頂き、おおむね順調に進んでいます。

調査で得られた結果から、子どもたちの健康状態、育児環境、子育て家庭の生活実態などについて、いろいろなことがわかってきています。

さて、福島県では全国でもっとも多い約13,000人の参加者がいらっしゃいます。昨年10月から教員として、佐藤晶子医科大学助手が私たちの仲間に加わりました。私たちは福島の子どものこのデータを用いて適切な分析を行い、「安心して産み、育てられる環境を作っていく」という目標に役立てていきたいと考えています。そのためには、皆様が本調査に継続してご協力頂くことが必要です。是非、今後ともご協力のほど、よろしくお願い致します。



エコチル調査5周年 シンポジウムのご報告



エコチル調査5周年記念シンポジウムが1月16日(土)日本科学未来館で開催されました。エコチル調査の集計結果報告と、エコチル調査サポーターで淑徳大学教授の北野大(まさる)先生の講演がありました。講演は『子どもの健康と化学物質』という難しいテーマを、やさしく・楽しく説明してくださいました。集計結果は、子どもの睡眠時間、花粉症やぜんそくなどについての報告がありました。

皆様のこれまでのご協力のおかげで、貴重な調査結果が次々と明らかになってきています。今回発表された調査結果は、今後「エコチル☆ふくしま通信」やホームページでご紹介していきますので、楽しみにしてくださいね。



エコチル調査福島ユニットセンター
医科大学助手 佐藤 晶子です!

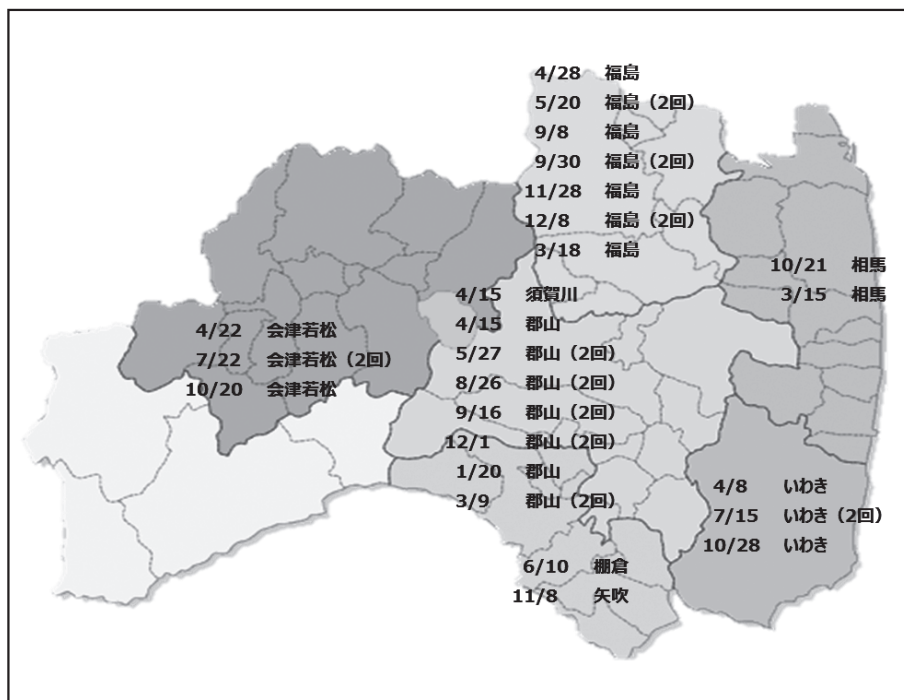
みなさま、はじめまして。昨年10月から福島ユニットセンターの一員になりました。お忙しい中、いつもエコチル調査へのご協力ありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

4. エコチルふれあい会・ふれあいカフェの実施状況

ふれあい会・ふれあいカフェは、福島のお子さんの成長をともに見守るための企画として平成25年度から開始した。ふれあい会は、スタッフにとって親子のふれあい・遊びの場や育児相談などを通じて、当ユニットセンターのモットーである参加者さんとの「顔が見える」コミュニケーションを具体化できる貴重な機会として実施している。

(1)開催状況

平成27年度は県内6地域で計35回開催した。



(2)各対象児のふれあい会・ふれあいカフェの様子

6か月児ふれあい会

最も人気のあるふれあい会でした。

参加者のお子さんたちの成長に伴い、平成27年度で6か月児ふれあい会は終了しました。



わらべ歌ベビーマッサージ



小児科医師のミニ講話



茶話会・子育て相談の時間



みんなの笑顔がとっても素敵です

1歳6か月児ふれあい会

絵本の読み聞かせ・自由遊び・親子体操などを親子で一緒に楽しみました。



保育士の資格を持つスタッフによる、子どもたちに人気の大型絵本の読み聞かせ



自由遊び
手作りおもちゃにみんな興味津々でした



お母さんと一緒に準備運動。上手だね。



ミニ親子運動会みんな元気いっぱい！

3歳児ふれあい会

親子体操(3B体操)の講師の先生を迎えて、全身を使う複雑な運動で体を思いっきり動かしました。



一緒にやってみよう！

ふれあいカフェ

新たな試みとして、子育て中のお母さんがたを応援したいというシンガーソングライターとピアニストにご協力いただき、音楽を通じた親子のふれあい会を1回開催しました。



シンガーソングライター：磯山純さん、ピアノ：鈴木孝彦さんによるライブ



みんなで拍手！



テーブルを囲んで、日ごろの育児の様子などをお母さん同士で情報交換しました

(3)ふれあい会アンケート結果

アンケートは、参加者からふれあい会を含むユニットセンターが行っている事業についてのご意見を頂く貴重な機会であり、ふれあい会実施毎に実施している。頂いたご意見・ご要望は、参加者さんとのコミュニケーション活動計画や実施の改善に役立てている。以下は平成27年度に寄せられたご意見・ご感想をまとめたものである。毎回参加者のほぼ全員からアンケートへのご記入を頂いている。

○ プログラム内容

各プログラムについての参加について「良かった」「まあまあ良かった」と答えた方は、90%以上であった。

各プログラムに対するコメントは以下のとおりである。

● 6か月児

- ・子どもが気持ちよさそうだった。
- ・初めてのベビーマッサージで、やり方がわかってよかった。
- ・歌をうたいながらゆっくり教えて頂いたので、家でもやりたい。

● 1歳6か月児

- ・子どもが喜んで楽しそうだった。
- ・見慣れている内容でも、違った形式で見られて良かった。
- ・たくさん体を動かして良かった。楽しかった！
- ・自由にのびのび、子ども同士ふれあえて良かった。
- ・同年代の子どもと遊ぶ事が初めてで心配でしたが、親が離れていても楽しく遊んでいた。

- ・家でも作れる色々な手作りおもちゃがあり、作ってみようと思った。
- ・子どもの興味があるものが分かり、子どもの興味が広がったと思う。
- ・運動する時間がもう少し長くても良いのではないかと思った。

● 3歳児

- ・親子で楽しくできた。家でもやってみたい。
- ・思いっきり体を動かすことが少なかったので気持ちよかった。
- ・子どもが楽しそうだった。
- ・自宅で実践できるもの、手遊びがあったらよかった。

● ふれあいカフェ

- ・子どもに生の歌声やピアノ演奏を聞かされて良かった。
- ・子連れではライブに行きたくても行けないので嬉しかった。
- ・最初に「子どもが泣いても全然良いよ」と言ってくれて気持ちが楽になり楽しく聞けた。
- ・普段できないことができて嬉しいし、とても息抜きになっています。
- ・(椅子ではなく)マットスペースがもっと広くても良いと思った。

○ 小児科医のミニ講話

- ・日焼け止めのお話が参考になった。
- ・最近のデータなど知れて良かった。
- ・予防接種、B型ワクチン、アレルギーの話など勉強になった。
- ・気になっていた事が聞けて良かった。

○ 茶話会など

- ・他のママさんと話ができて、同じ悩みを持っているんだなと安心した。
- ・他のお母さんと子育てに関する話ができて良かった。楽しい時間を過ごせた。
- ・助産師など専門の方と話ができて良かった。
- ・スタッフの方に子こどもを見て頂いたので、ゆっくり交流ができた。
- ・もう少し交流の時間が長くても良いと思った。

○ エコチル調査への参加について

- ・質問票に回答するだけでその月齢の子がどういう事をしている時期なのか分かって良い。

- ・自分達の生活を見直せる機会になった。
- ・エコチルスタッフの方々との触れ合いや繋がりが有る事で、安心を感じます。
- ・改めて、家族で、子どもの成長や日頃の事を話し合う時間が持てることが良かったです。
- ・上の子がいると下の子の成長はあっという間に大きくなる。下の子もちゃんと見てあげなくちゃと思った。

○ その他

- ・ニューズレターは、ほとんどの人が「みている」との回答であった。
- ・ホームページの閲覧機会は「ほとんどない」という回答が多かった。

5. エコチル調査協力医療機関等一覧

1)産科協力機関(リクルート・妊娠・出産・出産後1か月調査)

平成28年3月31日現在

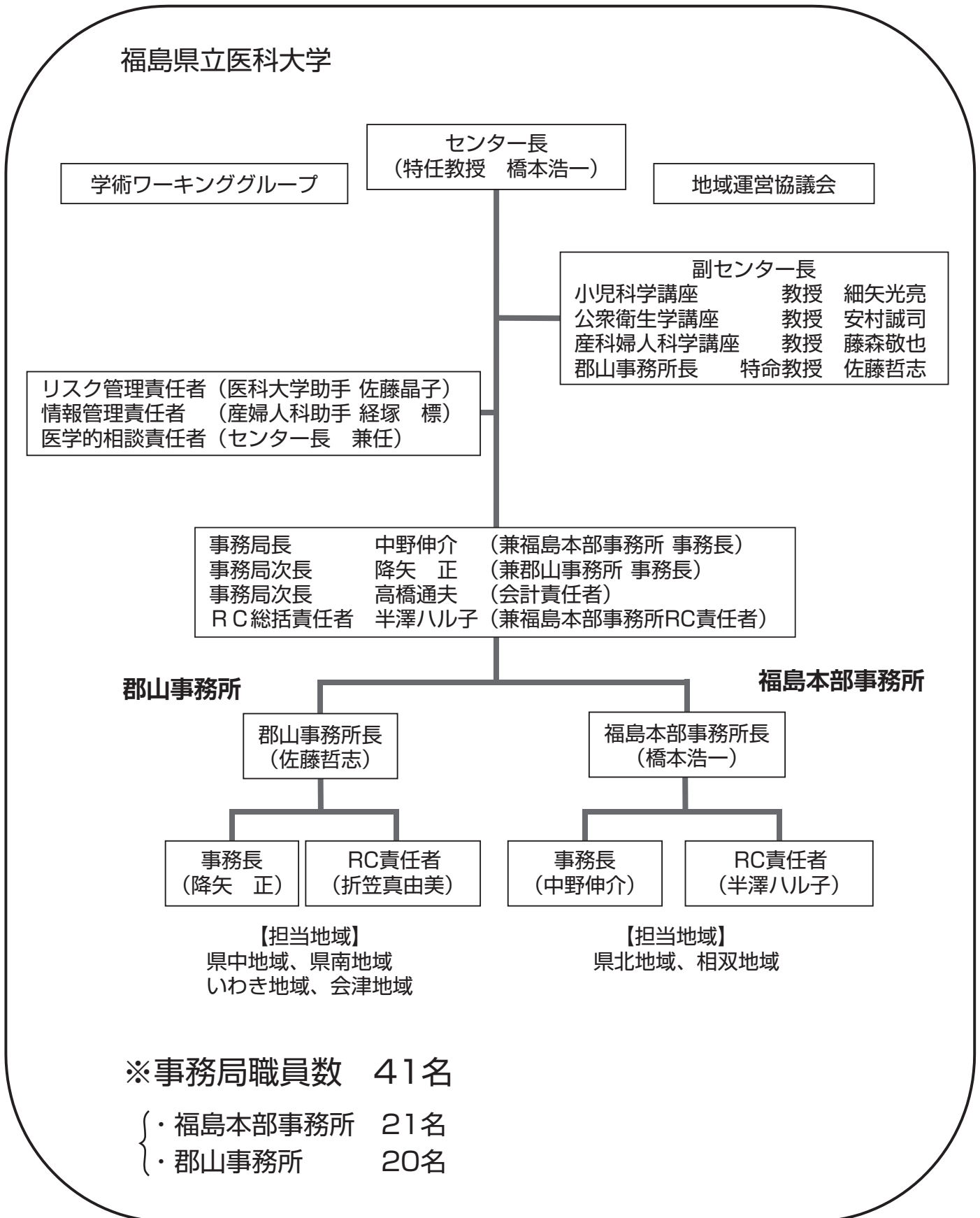
	エリア	協力医療機関名	所在地	担当	備考	
1	県北	日本赤十字社 福島赤十字病院	福島市	福島本部 事務所		
2		明治病院	福島市			
3		いちかわクリニック	福島市			
4		ささや産婦人科	福島市			
5		新妻産婦人科	福島市			
6		本田クリニック産科婦人科	福島市			
7		済生会福島総合病院	福島市			
8		大原総合病院	福島市			
9		福島県立医科大学附属病院	福島市			
10		大川レディースクリニック	福島市			
11		菅野産婦人科医院	福島市			
12		セントクリニック	伊達市			
13		二本松ウイメンズクリニック	二本松市			
14		社会保険福島 二本松病院(旧名称)	二本松市		平成25年3月31日終了	
15		渡辺医院	二本松市			
16		谷病院	本宮市			
17	県中	たなかレディースクリニック	郡山市	郡山事務所		
18		岡崎産婦人科	郡山市			
19		寿泉堂総合病院	郡山市			
20		塚原産婦人科内科外科医院	郡山市			
21		トータルヘルスクリニック	郡山市			
22		太田西ノ内病院	郡山市			
23		星総合病院	郡山市			
24		総合南東北病院	郡山市			
25		古川産婦人科医院	郡山市			
26		国立病院機構 福島病院	須賀川市			
27		小森山産婦人科医院	須賀川市			
28	県南	片倉医院産科婦人科	白河市	福島県民のみリクルート		
29		白河厚生総合病院	白河市			
30		塙厚生病院	東白川郡			
31		岩佐医院	茨城県久慈郡			
32	会津	舟田クリニック産科婦人科	会津若松市			
33		竹田総合病院	会津若松市			
34		会津中央病院	会津若松市			
35		坂下厚生病院	河沼郡			
36	相双	あらき産婦人科クリニック	相馬市	福島本部 事務所	エコチル調査リクルート中断	
37		南相馬市立総合病院	南相馬市			
38		レディースクリニックはらまち	南相馬市			
39		西潤マタニティクリニック	南相馬市			
40		原町中央産婦人科	南相馬市			
41		大町病院	南相馬市			
42		双葉厚生病院	福島市飯坂			
43		今村クリニック	双葉郡浪江町			
44	公立相馬総合病院	相馬市				
45	いわき	村岡産婦人科医院	いわき市	郡山事務所		
46		渡辺産科婦人科	いわき市			
47		かたよせクリニック産科・婦人科	いわき市			
48		NOBUマタニティクリニック	いわき市			
49		いわき市立総合磐城共立病院	いわき市			
50		森田泌尿器科産婦人科医院	いわき市			
51		つくだ町産婦人科医院	いわき市			
52		月川レディースクリニック	いわき市			
53	佐藤マタニティー・クリニック	いわき市				

2)平成27年度 詳細調査、及び疾患情報登録協力医療機関等

	エリア	協力医療機関名	所在地	担当	備考
1	県北	大原総合病院	福島市	福島本部 事務所	
2		福島県立医科大学附属病院	福島市		
3		福島医療生活協同組合 医療生協わたり病院	福島市		
4		福島赤十字病院	福島市		
5		公立藤田総合病院	国見町		
6	相双	公立相馬総合病院	相馬市		
7	県中	寿泉堂総合病院	郡山市	郡山事務所	
8		太田西ノ内病院	郡山市		
9		星総合病院	郡山市		
10		公立岩瀬病院	須賀川市		
11	県南	白河厚生総合病院	白河市		
12	会津	竹田総合病院	会津若松市		
13		福島県立南会津病院	南会津町		
14	いわき	いわき市立総合磐城共立病院	いわき市		
15		第二子どもの家	いわき市		

6. 平成27年度 福島ユニットセンターの組織図

(平成28年3月31日現在)



編集・発行

福島県立医科大学

エコチル調査 福島ユニットセンター 福島本部事務所
本部事務所

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
TEL 024-547-1447 FAX 024-547-1448

*お問合せ窓口 TEL 024-547-1449

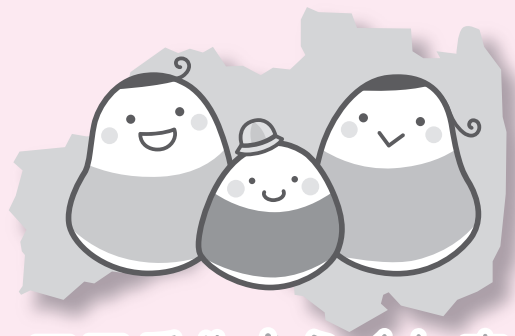
新町オフィス

〒960-8036 福島県福島市新町4番19号
山口ビル2階
TEL 024-523-5535 FAX 024-523-5537

エコチル調査 福島ユニットセンター 郡山事務所

〒963-8024 福島県郡山市朝日3丁目6番4号
レジデンス朝日第2ビル2階
TEL 024-983-4750 FAX 024-983-4751

*お問合せ窓口 TEL 024-983-4780



エコチル★ふくしま

Eco&Child Fukushima